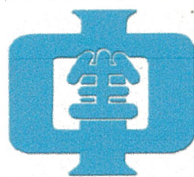


長 坂



平戸市立生月中学校
学校だより第 2号
(平成31年 4月)

文責 西澤 庄藏

入学式が挙行されました。新入生の皆さん、「ようこそ、生月中へ」

04/09(火)、38名の新入生を迎え、第14回入学式が行われました。新入生代表の破戸 峻佑(1-2)さん、生徒代表の塚本 怜哉(3-1)さんも堂々としたあつさつをしてくださいました。

校長式辞では、常々思っていることの「心の力」と「学ぶ力」について、それぞれ述べました。「心の力」とは「人に優しくする心」や「命を大切にする心」のことです。誰に対しても優しく接したり、全ての命を大切にしたりと心がけが必要です。人に優しくすることや、命について一生懸命に考えることによって、よりよく生きる「心の力」が身につくと考えます。自分を大切にし、周りの人も大切にできる人間になってください。自分の命について考え、自分の命の生かし方について考え、他の人の命も分け隔てなく大切にすることを3年間で大きく育ててほしいと思います。「学ぶ力」とは前向きに学習に励むことから備わります。どの教科も、自分で解決する方法を考え、さらに、その方法について他の人に伝える力を身につけてほしいと思います。自分の考えを相手に伝えることは難しいことですが、その学習を繰り返すことで必ず身につけることができます。今、その力が求められています。自分で理解・習得したことを発表したり、他の人に伝えたり、教えたりすることにより、学習したことが深い学びとなり、自分のものになっていきます。【抜粋】

ほかに、こう語りかけました。

皆さんは、名前や顔が違うように、一人一人の個性や発育の時期も違います。自分の良い面、自分らしさを発揮し、世の中でたった一人しかいない自分の花を咲かせてほしいと思います。【抜粋】

通常の学級には様々な状況の生徒が混在しており、色々な環境の中で自分の持ち味を生かし、社会の一員として生活を送ることができるように多くの「学び」を受けています。生徒は、学級で、色々な人たちと様々な教育活動を行うことを通して、多様な価値観を受け入れ、共に生きることでできる力が育っていきます。しかし、集団で活動することが困難で、少人数で通常の学習やソーシャルスキルなどを学ぶ場が必要な生徒もいます。生徒一人一人の、また、それを支える保護者の方々の教育的なニーズに応じ、手厚い支援ができるよう環境を整えることも重要であると考えます。本年度も、小学校から引き続き、特別支援学級が開設される運びとなりました。通常学級と特別支援学級が一体となって、全ての生徒の個性や可能性が引き出され、それぞれが自立し、互いに共生しようとする人づくりを具現化していきます。保護者の皆様も、どうか、ご理解・ご支援願います。

新入生の元気な返事と清々しい態度は新しい生月中学校のスタートにふさわしい素晴らしいものでした。この澄んだやる気に満ちた新入生の目を見ていると、この生徒たちのため、頑張らなくてはいけないという気持ちが沸いてきました。そんな生徒たちを前に、勉強や運動を通して学力や体力をつけ、心豊かな人間へと成長させていかなければならないという思いを新たにしているところです。職員一丸となって頑張っていきたいと思っていますので、ご家庭や地域でも、昨年度同様、ご理解ご支援願います。

P.T.A会長の松山幸一様から祝辞を賜りました。「校訓」や脈々と受け継がれている「生徒信条」について分かり易く説明していただき、式典に華を添えてくださいました。ご多忙の中、ご臨席いただきましてご来賓・保護者の皆様、ありがとうございました。

歓迎行事が行われ、親睦を深めるためのレクリエーションも行われました。

04/12(金)新入生を迎えての歓迎行事を行いました。生徒会執行部を中心に企画・運営し、生徒会及び専門委員会紹介、部活動紹介、そして、歓迎レクリエーションと、趣向を凝らした催しを行いました。特に、レクは、長縄飛びは学級ごと、人間知恵の輪とドッチボールは縦割り班(異学年集団班)ごとと、母体も様々でした。1時間ほどの時間でしたが、楽しいひとときがありました。



←写真は「人間知恵の輪」の風景です。

班員全員が内側に向かって輪になり、他の人と手をつなぎます。そして、絡まった糸をほどうように少しずつほどこいて大きな輪を完成させます。協力が試される体感ゲームで、連帯感、成就感を味わったものと察しました。

なお、部活動紹介については、紙面の都合上、次号で、その様子をお伝えする予定です。